

【技術専門部会報告】

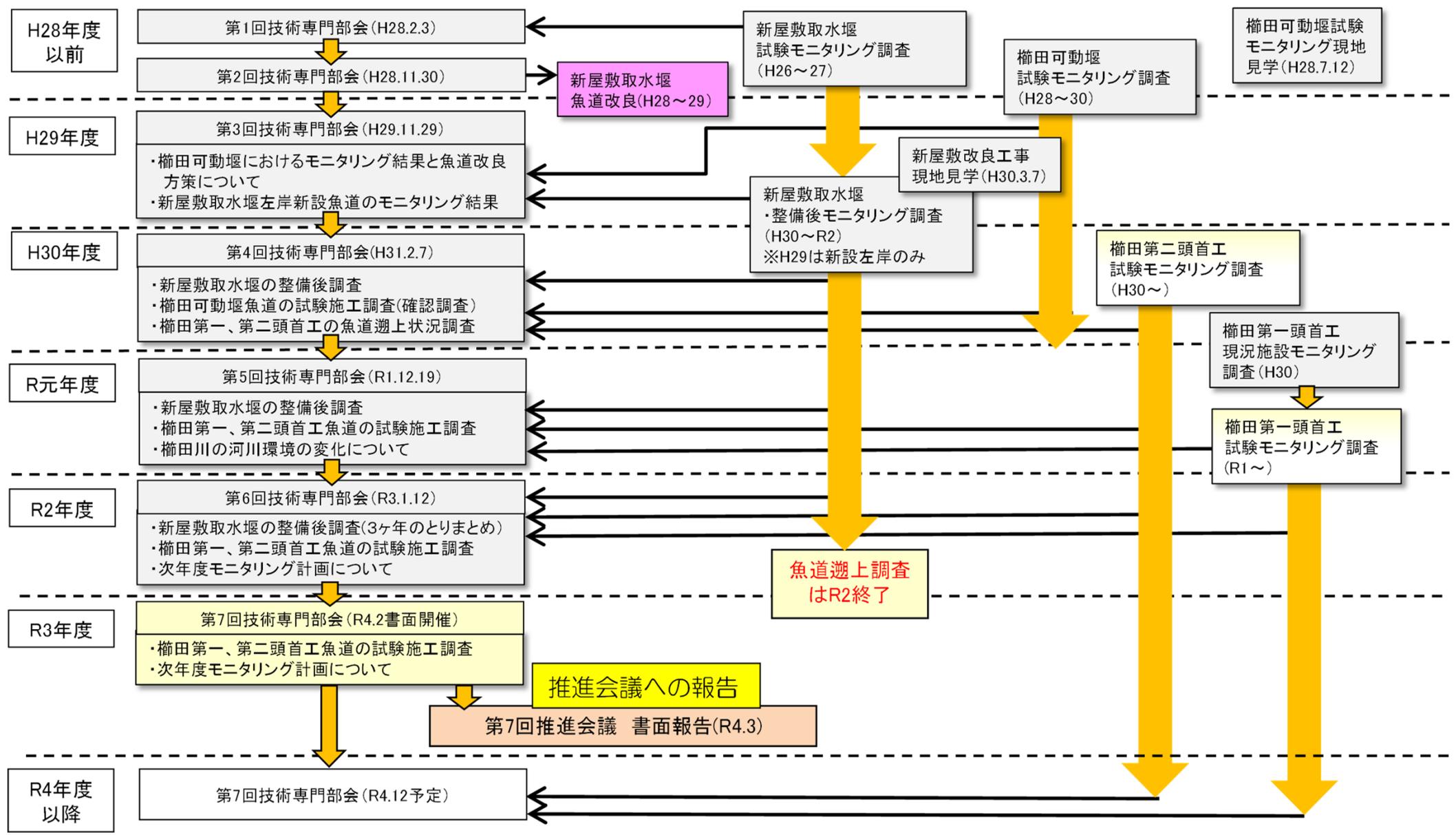
令和4年3月

技術専門部会
部会長 河村 功一

1. 技術専門部会の取り組み

(1) 縦断的連続性再生（魚道改良等）の取り組み

- ・ 櫛田第二頭首工、第一頭首工は、試験モニタリング調査（H30～R3）を実施し、課題・対応策の検討を行いました。
- ・ R4はこれまでのモニタリング結果も踏まえて、簡易的な施工である程度の耐久性が確保できるような試験施工を実施し、モニタリングを行うことを予定しています。



2. 第7回技術専門部会の開催概要

- 第7回技術専門部会は、当初、R4.2.22開催予定でしたが、新型コロナまん延防止等重点措置が3/6まで延長されたことに伴い、書面開催に変更しました。（R3.2.18に書類発送）

(1)日時：書面開催（令和3年2月18日(金) 資料発送）

(3)議題：

①櫛田川自然再生推進会議 技術専門部会の議事概要について

- 第6回技術専門部会議事概要については、特に意見はありませんでした。

②自然再生モニタリング調査結果について

- 『縦断的連続性の再生』を進めるための基礎調査として実施した、魚類の生息・産卵・遡上環境等のR3モニタリング調査結果について書面で報告しました。
 - 櫛田第二、第一頭首工の試験モニタリング調査により、試験施工による効果を確認しました。
 - 課題として、流量増加により第一頭首工では遡上率が大きく低下しており、改善が必要と評価されました。

③次年度モニタリング方針について

- 次年度モニタリングの方針について、書面で確認しました。
 - R4は簡易的な施工で、できるだけ耐久性を持たせた試験施工を行い、モニタリング調査を実施することを予定します。
- 寄せられた意見は以下のとおりです。
 - 櫛田可動堰でも可能な範囲でモニタリングを行った方が良いのではないか。
 - 産卵床環境調査について、庄地区についても調査前に現状を確認しておいた方が良い。

④今後の進め方について

- 今後の進め方について、書面で確認しました。特に意見はありませんでした。
 - R4年度は、R3年度に引き続き櫛田第一・第二頭首工「試験モニタリング調査」を予定します。
 - 櫛田第一、第二頭首工の魚道改良に関して、関係機関等と協議・調整し、簡易的な施工で対応を行い、R5で一区切りする方向で進めていきます。